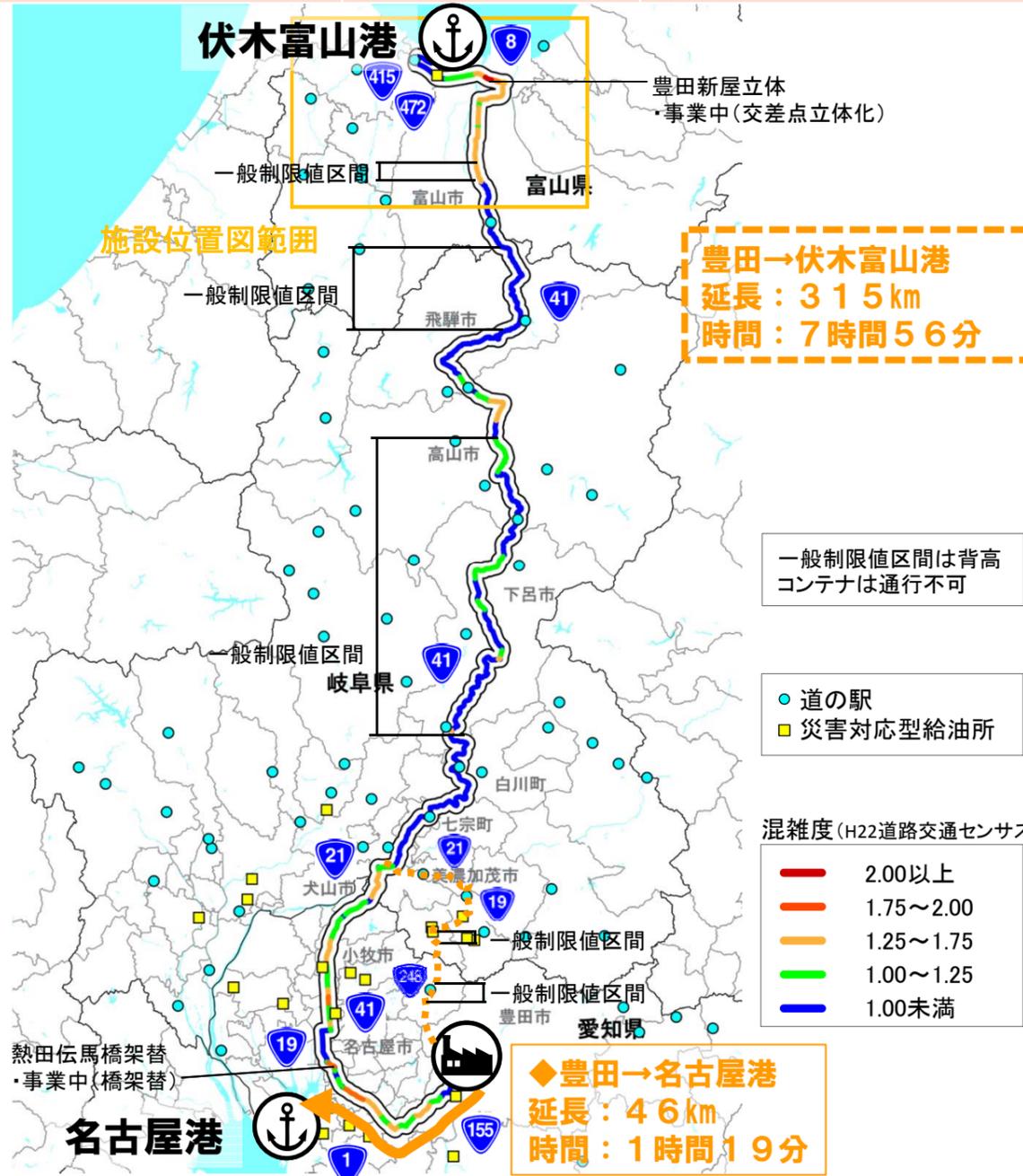


# 代替輸送モデルケース(伏木富山港の例)

(別紙-1)

対象地震	被災港	対象代替港
南海トラフ地震	名古屋港	伏木富山港



**豊田→伏木富山港**  
延長：315 km  
時間：7時間56分

**◆豊田→名古屋港**  
延長：46 km  
時間：1時間19分

主な路線名	距離(km)	所用時間
一般国道155号	14	1:16
一般国道1号線	18	
一般国道19号	7	
一般国道41号①	34	6:28
一般国道21号	3	

主な路線名	距離(km)	所用時間
一般国道41号②	213	(6:28)
一般国道8号	17	
一般国道472号	1	
一般国道415号	7	0:11
合計	315	

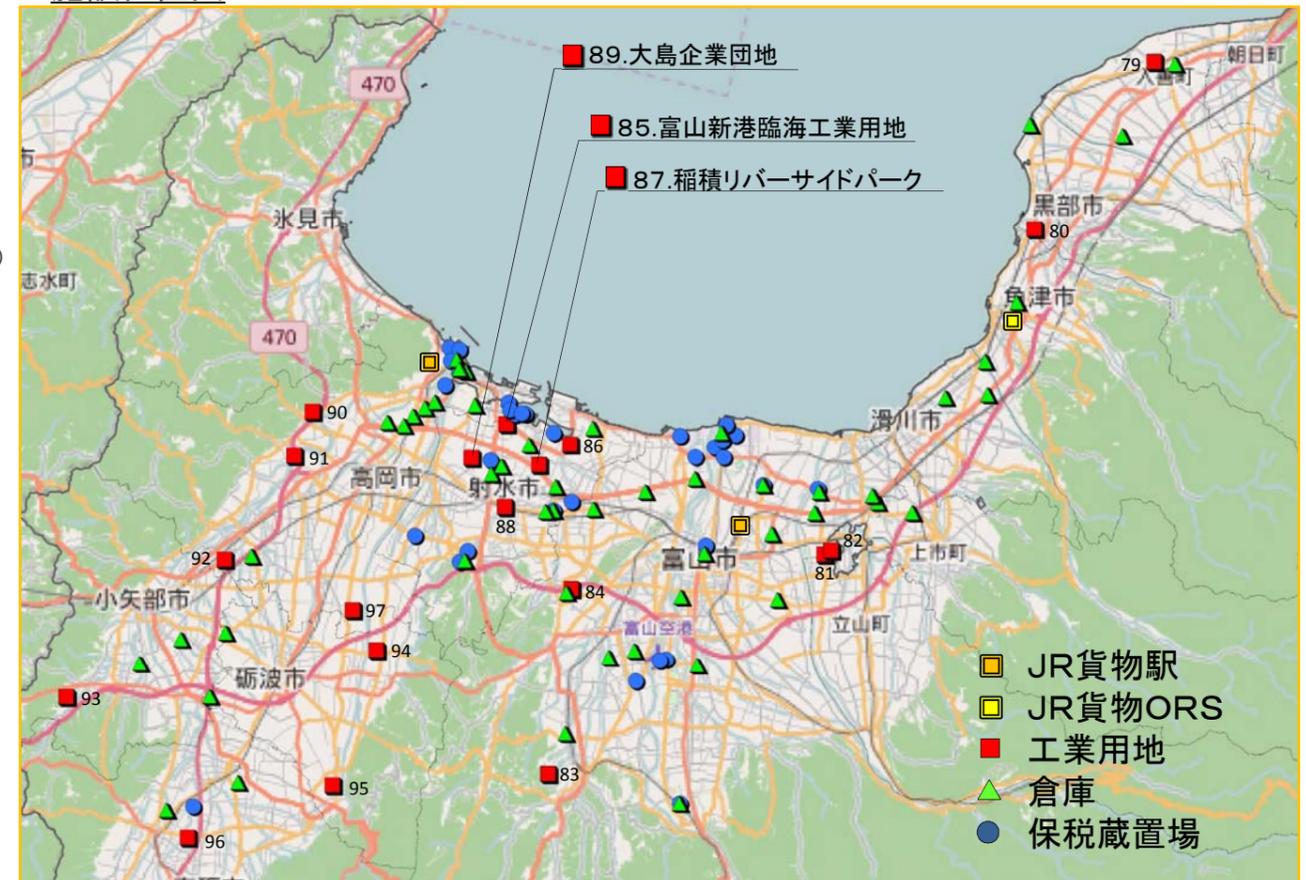
## ■ルート設定の考え方

- ・ 平常時に名古屋港を利用して輸出入を行っている貨物を、災害時に伏木富山港を利用して、代替輸送を行うことを想定
- ・ 発着点は、南海トラフ地震の被災エリアの中からコンテナ貨物の生産・消費量が多い生活圏(豊田)を設定
- ・ 輸送ルートは、名古屋市周辺は被災後に道路交通規制を敷くことが計画されているため、交通規制予定路線を確認し、それ以外の路線から設定
- ・ 設定する路線は、一般道で重さ指定、高さ指定のある道路を基本とし設定  
※背高コンテナの通行ができない一般制限値区間はルート図に記載
- ・ 港湾機能の強化のため、伏木富山港背後のJR貨物駅、空き工業用地、倉庫、保税蔵置場を下図に記載

## ■備考

- ・ 名古屋市街地(国道1号等)や、富山市街地(国道41号)等では、混雑度1.25~1.75の区間が複数存在し、ピーク時を中心として混雑することが想定される。
- ・ 名古屋市街地(国道1号・41号)では、橋梁区間等で混雑度1.75~2.00の区間があり、慢性的に混雑している。

## ■施設位置図



※旗揚げの工業用地は、災害時のコンテナ増加個数を考慮し仮置き可能な面積を有することを確認  
※詳細は、参考-2参照  
出典：富山県HP、富山県倉庫協会HP、税関HP(大阪税関管轄)